

## I. 教科の目標達成への配慮

観点	内容と特色	具体例
●学習指導要領の教科の目標達成に向けて、どのような配慮がなされているか。		
・道徳的諸価値についての理解	●各教材の冒頭に「問いをもつ(導入)」, 末尾に「まとめる(終末)」「広げる(発展)」を設置し、1時限の授業の目的や流れを明確にしました。導入でもった「問い」を意識して学習に臨み、終末で学習内容をふり返ることで、道徳的価値の理解の深まりや、考え・心の変容が実感できるようにしています。	→各教材 紙面構成
・自己を見つめる	●各教材冒頭の「問いをもつ」で児童の経験を想起させたり、主題に関わる問題意識をもたせたりすることで、教材の内容に興味・関心を抱かせます。これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らしあわせながら、目的意識をより明確にした上で、学習に取り組むことで、これからの課題や目標を見つけることができるようにしています。	→各教材冒頭
・物事を多面的・多角的に考える	●児童の思考をサポートするキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など、さまざまな「問いかけ」を行うことで、多様な感じ方や考え方を実感できるようにしました。児童が、さまざまな視点から物事を理解し、多面的・多角的に考えることができるよう工夫しています。	→各教材下段 キャラクターの問いかけ 
・自己の生き方についての考えを深める	●終末では「まとめる」として、その時間に学習した内容をふり返るポイントを提示し、「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」を確認します。学習内容をまとめる活動を通し、学んだ道徳的諸価値を自分との関わりの中で捉え、発展させようとする配慮しています。	→各教材末尾 まとめる 
・道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度を育てる	●発展では「広げる」として、「道徳の時間」で学んだことを他教科や学校での活動, 家庭生活, 地域社会などへとつながりをもたせ広げていくためのポイントを提示しています。1時限の授業を通して、道徳的諸価値を理解し、それを大切にすることを育るとともに、実生活へ生かそうとする意欲を引き起こすことができるよう配慮しています。	→各教材末尾 広げる 

観点	内容と特色	具体例
●学習指導要領の内容の指導に当たって配慮すべき事項に対し、どのような配慮がなされているか。		
・道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。	●各教材は、他教科・他領域や学校行事との関連が図りやすいように、学習時期に配慮して配列しています。 ●地域や学校、学級の実態などに即して弾力的に取り扱えるように、第1学年は6本、第2学年～第6学年は5本のふろく教材を用意しました。 ●各教材には主たる内容項目と関連性のある内容項目をそれぞれ設定し、内容項目同士が相互に関係しあい、多面的・多角的に思考を深められるよう配慮しました。	→各教材 配列 →全学年 ふろく教材 (1年35～40, 2～6年36～40) →全学年最終ページ 内容項目別教材一覧
・児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。	●オリエンテーションページの中で、「どうしてだろう」「なぜだろう」と、児童が常に「問い」をもって授業に臨むことの意味を示しました。各教材においても、導入での問いをもたせる活動や、教材内でのキャラクターによる問いかけを通して、児童がただ教材を読むのではなく、自主的・主体的に問題について考える学習ができるような工夫をしています。教材末尾には考えたことをまとめ、授業後の生活に広げられるよう、終末・発展の活動を「まとめる」「広げる」として提案しています。 ●学習後はふり返りを記述し蓄積できるよう、巻末に自己評価シート「学びの足あと」を用意しました。授業後の心の動きや学びを継続して書き溜めることにより、児童自らが成長を実感し、道徳性をより深め育み、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組めます。	→全学年P.4～5「道徳の時間は、こんな時間です」 →全学年巻末折り込み「学びの足あと」
・児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実すること。	●オリエンテーションページにおいて、話し合い活動について、その重要性や目的がわかるようにしました。また、「道徳のノート」の例を提示し、書いてまとめることによって理解を深めたり整理したりできることを示しました。 ●学習内容を広げるために、終末・発展で教材と関連する本を読む読書活動を提案しています。また、コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、語彙の獲得にもつながるようにしています。教材とも関連させることで、言葉のもつ力をより実感できます。 ●「学びの足あと」に授業のふり返りを記入することで、自分の考えを表現する力を育み、学習を継続的に深められるようにしました。	→全学年P.4～5「道徳の時間は、こんな時間です」 全学年P.9「道徳のノート(例)」 →6年P.75「15 誠実な人—吉田松陰—」広げる など →コラム「ことばのたからもの」(1年P.131/2年P.143/3年P.157/4年P.159/5年P.163/6年P.167) →全学年巻末折り込み「学びの足あと」


観点	内容と特色	具体例
<p>・情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達の段階や特性等を考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てよう努めること。</p>	<p>●情報化への対応に関しては、「規則の尊重」「善悪の判断、自律、自由と責任」「相互理解、寛容」「節度、節制」といった各内容項目の教材において情報モラルに関わる内容を題材として扱い、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度について考えられるようにしました。また、情報モラルは特に配慮が必要な項目と捉え、全学年とも本編の教材の他にコラムとしても取り上げています。その他、「健康教育」「防災教育」「キャリア教育」などの諸課題についても、教材の題材として取り込み、その学習を行うことで児童が自分自身にひきつけて考えられるようにしました。</p> <p>●いじめの防止や安全の確保といった課題については、児童にとって喫緊の問題であると捉え、各内容項目の教材において、直接的・間接的に児童自身の問題として捉えられるような教材を選定しました。特に、いじめの防止については教材のほかに、全学年にコラム「みんな仲よし楽しい学校」を発達段階に合わせて設置し、児童自らがいじめの防止などに主体的に関わる態度を育てるように配慮しました。</p> <p>●「規則の尊重」「公平、公正、社会正義」「国際理解、国際親善」「生命の尊さ」「自然愛護」といった各内容項目において、持続可能な開発のための教育(ESD)を意識した学習ができるよう配慮しています。</p>	<p>→5年P.62 コラム「だれの研究?」 5年P.102 「22 約束」 5年P.106 コラム「スマホと上手に付き合うために」 など</p> <p>→2年P.62 「14 ピーマンマンとよふかし大まおう」(健康教育) 3年P.158 「36 台風の日」(防災教育) 6年P.48 「10 技術で「障がい」をなくしたい ― 遠藤謙 ―」(キャリア教育) など</p> <p>→コラム「みんな仲よし楽しい学校」 (1年P.130/2年P.142/3年P.156/ 4年P.158/5年P.146/6年P.138)</p> <p>→4年P.48 「10 自分たちができるエコ活動」(規則の尊重) など</p>
<p>・家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。</p>	<p>●教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携がとりやすい題材を多種取り入れています。また、家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を発展活動として提示し、学習したことが児童の日常へつなげるように配慮しました。</p>	<p>→1年P.40 「11 まちたんけん」 2年P.26 「5 げんかんそうじ」 など</p>

観点	内容と特色	具体例
<p>●教育基本法に示された教育の目標を踏まえ、どのような配慮がなされているか。</p>		
<p>・真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う (教育基本法第二条一)</p>	<p>●各学年に取り上げた40点の教材それぞれに適切な主題を設定し、道徳的価値の理解とともに、その行為を生み出す心を感じること、ならびに学んだことを実践しようとする意欲と態度を育むことを主題のねらいとしています。</p> <p>●教師用指導書において、これらの主題のねらいを詳細に示すとともに、主題設定の理由を目標観、児童観、教材観、指導観の4つの視点から解説することで、子どもたちの深い学びをうながす指導ができるよう工夫しています。</p>	<p>→各教材冒頭 主題</p>
<p>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う (教育基本法第二条二)</p>	<p>●「個性の伸長」の内容項目の教材では、個性を生かすことを学べるようにしています。また、過去の偉人や現代社会で活躍する著名人の生き方に迫る教材からは、キャリア教育的な見地も踏まえ、自己の生き方について考えを深められるようにしました。</p>	<p>→4年P.56「12 わたしのゆめ」 5年P.94「20 変えたもの・変えなかったもの ― 内川聖一 ―」 など</p>
<p>・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う (教育基本法第二条二)</p>	<p>●「勤労、公共の精神」の内容項目の教材では、働くことの社会的意義と充実感に触れ、みんなのために働くことのよさを実感できるよう配慮しました。また、さまざまな職業の人物を題材としてとりあげ、キャリア教育にもつながる、生き方を学ぶ教材としても学習が進められるよう配慮しました。</p>	<p>→6年P.40 「8 世界がおどろく七分間清掃」 4年P.14 「2 みんなのためにできること」 など</p>
<p>・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる (教育基本法第二条三)</p>	<p>●「善悪の判断、自律、自由と責任」「公正、公平、社会正義」の内容を中心に、責任ある行動ができる姿、分け隔てをせず、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める姿をめざせるように配慮しています。</p> <p>●「友情、信頼」の内容項目の教材では、互いに信頼し、よりよい人間関係を構築して集団生活を送っていく態度を養えるよう配慮しました。</p>	<p>→2年P.38「8 やさい村の子どもたち」 3年P.102「23 思い切って言ったらどうなるの?」 など</p> <p>→6年P.28「5 陽子、ドンマイ!」 など</p>
<p>・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条三)</p>	<p>●「勤労、公共の精神」の内容項目の教材では、多様な社会奉仕活動や学校内での奉仕活動などを取り上げ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。</p> <p>●学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさを体験する活動を提示し、家庭・地域での活動で実際に行うことで、主体的に社会へ関わる第一歩となるよう考慮しました。</p>	<p>→5年P.148「33 明日へ向かって」</p> <p>→1年P.12「2 あいさつでしあわせに」 など</p>
<p>・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う (教育基本法第二条四)</p>	<p>●「生命の尊さ」「自然愛護」の内容を中心に、命がかけがえのない大切なものであることを知り、自他の生命を尊ぶ心を育成するとともに、自然の不思議さ、雄大さを感じ、大切にしていこう態度を育成できるよう配慮しています。</p>	<p>→3年P.43「重点主題 自分のいのち」 5年P.124「27 自然を守るエゾリス」 など</p>
<p>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する (教育基本法第二条五)</p>	<p>●「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容を中心に、地域に根づく伝統や文化、行事、先人など、児童にとって身近なものを題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことにもつながるように配慮しました。題材は各地域のものであっても、どの地域においても活用できるよう、汎用性をもたせたつくりとなっています。</p>	<p>→3年P.52「12 キツネおどり」 6年P.106「22 これが日本」 など</p>
<p>・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条五)</p>	<p>●「国際理解、国際親善」の内容項目の教材では、諸外国の人々や文化、生活について触れ、理解することでその文化や生活を尊重し、共に親しむことにつながるよう配慮しました。</p> <p>●オリンピックやパラリンピックを題材にした教材やコラムからも、競技者やそれを支える人々の生き方などを通して、国際理解や国際親善を考えられるようにしました。</p>	<p>→1年P.100「27 エマさんのこたえあわせ」 など</p> <p>→4年P.118「26 十六番目の代表選手」 4年P.122 コラム「パラリンピックの競技」 など</p>

## Ⅱ. 教材選定上の特色

観点	内容と特色	具体例
●学習指導要領の内容項目を学習するために、適切な教材が選定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい話題や、読み継がれてきた名作など、児童が深く考えることができ、人間としての生き方に迫ることができる題材を用意しています。学習指導要領における目標、ならびに各学年の内容をもれなく指導できるよう、第1学年に34点、第2学年～第6学年に35点の教材を掲載するとともに、地域や各学校の指導の実態に応じて入れかえができるよう、第1学年に6点、第2学年～第6学年に5点の教材を付加し、多様な指導に合わせやすい構成になっています。</li> <li>●特に重点的な指導を必要とすることがら(『学習指導要領』第1章総則 第4-3-(2))について、長期的な見通しのもとにしっかり育むという趣旨のもと、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を「重点主題」として設定しています。</li> <li>●各教材は、それぞれねらいを達成するのにふさわしいものとなるよう精選し、特定の見方や考え方に偏った取り扱いがないようにしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→各学年 教材数40点</li> <li>→各学年 重点主題 例・1年P.65「重点主題 まいにちをきもちよく」</li> <li>→各教材</li> </ul>
●生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応などをはじめとした、現代的な課題を題材とした教材が掲載されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」といった題材は、発達段階を考慮しながら全学年に設置しました。</li> <li>●特に「生命の尊厳」の内容項目については、人間尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよりよく生きる喜びにつながるよう、重点主題として設定し、6年間の見通しをもって取り組めるようにしました。</li> <li>●特に考えさせたい教材には次ページに内容を補填するコラムを設け、児童の興味・関心を喚起するとともに、教材や内容項目に対する考えを深められるようにしました。</li> <li>●情報社会を生きるための情報モラルを取り扱った教材、ならびにコラムを各学年にそれぞれ1・2本用意し、6年間を通して学習できるように配慮しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→6年P.139「重点主題 命かがやかせて」(生命の尊厳)</li> <li>3年P.22「4 目をさますたね」(自然)</li> <li>1年P.76「21 もみじがり」(伝統と文化)</li> <li>5年P.54「11 ガンジーのいかり」(先人の伝記)</li> <li>2年P.56「13 オリンピックとパラリンピックのはた」(スポーツ) など</li> <li>→5年P.102「22 約束」 コラム「スマホと上手に付き合うために」(情報モラル) など</li> </ul>
●他教科や特別活動と関連するものとして使用できる工夫が、道徳教材の中にどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他教科での学習や特別活動へのつながりを意識して、教材の題材や発展での活動を精選しています。</li> <li>●指導書では「関連・連携のための指導計画例」を示し、授業前や授業後の他教科や特別活動、日常生活と授業のつながりが明確になるよう工夫しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→5年P.84「18 世界の文化遺産」 コラム「日本の世界遺産」(社会科)</li> <li>5年P.38「7 まかせてみようよ」(特別活動・宿泊学習) など</li> </ul>
●挿絵、図版は適切に用いられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書のサイズを大判化(A4変型版)することで、写真やイラストが引き立ち、児童の興味・関心や思考が深まるようにしました。大判化による児童の負担感の軽減のために、紙の厚みを抑えて軽量化を図っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→教科書 紙面版型</li> </ul>

## Ⅲ. 学習・指導への配慮

観点	内容と特色	具体例
●教材の配列、構成や文章量は適切に設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材は、内容がわかりやすく、かつ考える時間を十分に取れるよう、発達段階に応じた文章量で構成しています。</li> <li>●学習時期と教材内容の季節が一致するように教材を配列することで、児童が自分ごととして教材を捉えやすいように配慮しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→低・中・高学年 各教材</li> </ul>
●発達段階に配慮した表記・表現の工夫がどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字は前学年までに習った漢字の使用を基本とし、文節で改行を行うなど、読みやすさに配慮しました。また第3学年までは、全ての漢字にふりがなをふっています。</li> <li>●児童にとってなじみのない言葉やわかりづらいものについては脚注で説明し、それらが思考の妨げにならないよう配慮しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→各教材本文</li> <li>→4年P.25「4 十さいのプレゼント」 注釈「奥秩父」 など</li> </ul>
●特別支援教育等に対しどのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●A4変型版と大判化した版型を使用し、スペースが大きく見やすい紙面になるよう配慮しています。</li> <li>●図版やグラフなどの配色は、だれにでも見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→教科書 紙面版型</li> <li>→教科書内各種図版、イラスト など</li> </ul>
●体験的な学習を指導に取り入れるための工夫がどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーションページにおいて、体験することの重要性に児童が着目できるように、「やってみる」(P.5)を設けました。また、授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識づけができるような構成としています。</li> <li>●学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を示唆したり、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際にやってみることを提示したりしています。</li> <li>●コラム「みんなでやってみよう!」を全学年に設置し、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築にむけて、発達段階に応じたさまざまなグループワークを提示しています。主体的・対話的で深い学びにつながります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→全学年P.5「道徳の時間は、こんな時間です」の「やってみる」</li> <li>→1年P.13「2 あいさつでしあわせに」 広げる など</li> <li>→コラム「みんなでやってみよう!」 (1年P.34/2年P.42/3年P.14/ 4年P.22/5年P.22/6年P.22)</li> </ul>
●問題解決的な学習を行うための工夫がどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童が自ら「問い」をもって授業に臨むことの重要性を示しました。各教材においても、児童の経験や生活の中から「問い」がもてるように、さまざまな設問(導入)の工夫をしています。</li> <li>●教材の下段には、「考える」問いかけを配置しました。児童の考えを広める視点から問いかけを行い、児童が多角的・多面的に考えられるようにサポートし、さまざまな考えや意見をもとに、問題の解決にむけて取り組むことができるように配慮しています。</li> <li>●指導書の中で、主発問を明確にする、板書例を3段階で提示するなど、児童の主体的・対話的な問題解決を促すための教師の手立てについてわかりやすく解説しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→各教材冒頭</li> <li>→各教材下段 キャラクターの問いかけ</li> </ul> <div data-bbox="1626 2691 1885 2797" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <small>児童の思考をサポートするキャラクター</small>   </div>

観点	内容と特色	具体例
●児童の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすための評価の工夫がどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童が学習後の振り返りをできるように、巻末に自己評価シート「学びの足あと」を用意しました。授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組めるように配慮しています。また、学期末や年度末といった長いスパンでの振り返りもできるように、「まとめ」欄も設けています。</li> <li>●オリエンテーションページ内に道徳ノートの例を提示し、各時間の考え方や中長期的な考え方の変容を見取る評価のためのツールとして利用できるよう提案しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→全学年巻末折り込み「学びの足あと」</li> <li>→全学年P.9「道徳のノート(例)」</li> </ul>
●家庭、地域と相互連携した道徳教育を行うための工夫がどのようになされているか。	●教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携がとりやすい題材を多種取り入れています。各教材末尾の「広げる」においても家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示し、学習したことが児童の日常へつながるように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>→2年P.26「5げんかんそうじ」</li> <li>6年P.78「16松井さんのえがお」など</li> </ul>
●ICTを活用した道徳教育を行うための工夫がどのようになされているか。	●教師用指導書にはデジタル教科書(学習者用、指導者用)がセットになっており、教材の内容を深める動画や教科書紙面を大きく投影できる電子ブック、教科書掲載のイラストデータ、ワークシートなどが収録されています。デジタル教科書を活用することにより、児童の興味・関心を高め、効果的な学習ができるよう工夫しています。	→教師用指導書 付録DVD-ROM「デジタル教科書 デジ徳」
●印刷、製本上でどのような配慮がなされているか。	●印刷には植物油インキを使用しています。また、製本には針金を使用せず、堅牢性を保ちながら環境にも配慮しています。製本の際には、はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻繁に開閉しても壊れないよう工夫しました。	→教科書本体

#### IV. 内容項目の特色

観点	内容と特色	具体例
●4つの視点から内容項目を分類整理し、内容の全体構成及び相互の関連性と発展性を明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4つの視点については、オリエンテーションページにおいて、最初に「道徳の学習で考えること」として発達段階に応じた表現で明示し、児童にも理解できるように配慮しました。</li> <li>●4つの視点は、色とシンボルマークによって区別できるように工夫しました。各教材は、視点を構成する内容項目に合わせ、冒頭にシンボルマークを配置し、色を合わせるなど、一目で分類がわかるように考慮しています。</li> <li>●最終ページの「内容項目別教材一覧」では、主たる内容項目のほかに関連性のある内容項目を明記し、内容項目同士が相互に関係しあい、多面的・多角的に思考を進められるよう配慮しました。</li> <li>●最も指導の適時性のある内容項目を学年段階ごとに精選し、「重点主題」として重点的に示しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→全学年P.2～3「さあ、道徳の学習が始まります」</li> <li>→目次、各教材冒頭 シンボルマーク</li> <li>→全学年最終ページ 内容項目別教材一覧</li> <li>→各学年 重点主題 内容解説資料P.10～11「複数時間扱いで、より理解を深める」</li> </ul>
●4つの視点に含まれる全ての内容項目について、適切に指導できるような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「A 主として自分自身に関すること」として、自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図るための教材を各学年に7～12点配置しています。新学習指導要領で追加された内容項目の教材については、以下の通り配置しています。低学年「個性の伸長」…1年1点、2年1点</li> <li>●「B 主として人との関わりに関すること」として、自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るための教材を各学年に8～12点設置しています。新学習指導要領で追加された内容項目の教材については、以下の通り配置しています。中学年「相互理解、寛容」…3年2点、4年2点</li> <li>●「C 主として集団や社会との関わりに関すること」として、自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うための教材を各学年に12～14点設置しています。新学習指導要領で追加された内容項目の教材については、以下の通り配置しています。低学年「公正、公平、社会正義」…1年1点、2年2点 「国際理解、国際親善」…1年1点、2年2点 中学年「公正、公平、社会正義」…3年1点、4年1点</li> <li>●「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」として、自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めるための教材を各学年に7～9点用意しています。新学習指導要領で追加された内容項目の教材については、以下の通り配置しています。高学年「よりよく生きる喜び」…5年2点、6年2点</li> </ul> <p>内容項目のシンボルマーク</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>Aの視点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Bの視点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Cの視点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Dの視点</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→内容解説資料P.32～33「内容項目別教材一覧①」</li> <li>→内容解説資料P.34～35「内容項目別教材一覧②」</li> </ul>